

用ふ為さしし仰と蒙つ御日久の駿河

遠江二河等祖統と掌つ家譜武藏國赤山

領少く七千石餘の地と賜ひ家譜同二十年

十二月布衣と著しる事とわらうる正

保二年二月關東野山川論地と檢視し

御日記その子半左衛門忠清御日按しる家傳武

藏小生家譜寛永九年十月家傳武

大猷院殿小辨家譜正保二年八月清代官

とらる慶安二年閏十月仰小よりて

五畿内とよひ近江伊勢美濃の洪水に罹

つ地と巡見家譜子孫石邊將監忠尊寛政

家譜四年罷りて米池と没収家譜

と家譜先祖累代の勤功と思召し同族小三郎忠盛と

召さる新小千石と賜ふ家譜小三郎忠盛と祖より

玄藏忠公家譜備前守忠次家譜四男より家譜武

藏小生家譜寛永九年十二月

東照宮の仰小よりて

大猷院殿小附屬せしれ清小性家譜と治と心

家傳 後清小納戸の頭小轉ノ其後故ありて  
同僚加藤勘十郎某と同ノ清勘氣と  
蒙りて忠公ハ兄半十郎忠治小めノ頭ノ  
る後五年小ノて赦免ありこれより清  
小性組の番士小列ノ寛永十年七月清  
代官小轉ノ六百五十石と知行ノ  
代官伊左友之助  
忠富祖より  
五月埴ノ忠雪ノ備前守忠次ノ五男あり

家傳 武藏小生ノ寛永ノ慶長十四年初ノ  
て駿河大納言忠長卿小附属せられ  
寛永譜  
家傳 中根日向守ノ組ノ入ノ清書院の番  
士ノ忠長卿ノあノせ給ひ  
てのち處士ノ寛永十二年  
十二月めノ  
大猷院殿小治ノえ奉ノ同十五年五百  
石の采地と賜りノ清書院の番士